



テーマ

協同組合のめざすもの

第2回目となる今回は、「協同組合のめざすもの」がテーマです。

協同組合にはJA以外にも生協、漁協など様々な協同組合がありますが、これら「協同組合」は何を目指すのか、について考えます。

行き過ぎた 市場原理主義の 弊害

これまで、大量生産・大量消費、そして他者との競争による経済成長を追い続けてきましたが、今日では、それらによる経済や社会への深刻な副作用が明らかになってきました。

例えば、地球温暖化が原因と考えられている異常気象や自然災害の大型化、大気汚染などの公害問題、雇用環境の悪化(不安定な雇用、ブラック企業等)、企業倫理の欠如(食品や自動車に関する偽装事件等)、そして様々な「格差の拡大」問題などです。

これらは「行き過ぎた市場原理主義」の弊害であるとして、「市場の失敗」とも呼ばれています。

レイドロー博士が投げかけた課題

協同組合の目的について、カナダのアレクサンダー・レイドロー博士は「協同組合がほかの企業と同じように、商業的な意味では成功しても、それ以上のことを何もやらないとすれば、それで充分なのだろうか」と課題を投げかけています。

営利企業とは違うJAの取り組み

JAは経済活動にとどまらず、環境や健康、心の豊かさも大切に考え、「豊かな地域社会づくり」や「組合員の生きがいづくり」などに取り組んでいます。

イギリスでの協同組合誕生

世界で初めて「協同組合」が創られた19世紀中頃のイギリスでは、産業革命が進んだ結果、女性や子供までが低賃金・長時間労働で奴隷のように働かされ、食料品は品質や分量のごまかしが常態化し、さらに高利貸しの横行などが社会問題となっていました。当時、悪徳商人は、小麦粉を増量するために砂や石灰を混ぜたり、腐った食品でも平気で売りつけていたそうです。

これらに対して、自分たちの暮らしを守るために「協同組合」が誕生したのですが、現在の私たちも同ような問題に囲まれていると言えそうです。

協同組合の仲間

日本には「生産者の協同組合」として、JAや漁協、森林組合などがあります。

また、「消費者の協同組合」として生協、他に信用組合などもあって、多くの人達が利用しています。

それぞれの協同組合は、特徴を活かして活動していますが、同じ「協同組合」として、さまざまな経済・社会の諸問題を克服するため、競争から共生へ、相互扶助と相互信頼、そして公正な社会の実現を目指しています。

私たちのJA以外にもいろいろな協同組合があるのね



えみ
笑味ちゃん(小学2年生)

いつも明るく元気な女の子。
好奇心おうせいで、思っていることは素直に口にします。
食べることが大好きです。
国産農産物の消費拡大と食料自給率向上を目指した「みんなのよい食プロジェクト」のシンボルマークです。



JAグループ 福島
耕ぞう、大地と地域のみらい。

みんなのよい食プロジェクト